

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和6年度第3回
日 時	令和7年3月28日（金）午前10時30分～12時
場 所	前橋市議会庁舎2階 研修室
出 席 者	【委員：11名】 石川委員、大森委員、坂柳委員、清水委員、田中委員、橋本委員、眞庭委員、森下委員、矢端委員、山形委員、横田委員 【前橋市】 小川市長、細谷副市長、吉川教育長、阿佐美未来創造部長、宇次政策推進課長、林政策推進係長、政策推進係員
発 言 内 容	
阿佐美未来創造部長	ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和6年度第3回会議を開会いたします。 私は、本日の司会を務めます、前橋市未来創造部長の阿佐美と申します。どうぞよろしくお願いします。
小川市長	それでは、はじめに、県都まえばし創生本部・本部長の小川市長からごあいさつを申し上げます。 本日は年度末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今年度3回目の有識者会議になります。前回の会議でも総合計画の改訂版、人口ビジョンの改定に活発なご意見をいただき、また会議が終わったあとにも沢山の意見をお寄せいただきまして、ありがとうございます。本日は前回の結果を取りまとめたものの報告、それから3年後には第八次総合計画を策定しなければいけないということで、それに向けた意見交換を早めに皆さんと進められたらと思っております。 前橋市ですけれども、今こども子育て、教育が最優先ということで、こどもや若い世代に投資をしていくことが、将来的な経済発展や地域の担い手育成、社会保障の安定化に繋がると将来に渡り持続可能な好循環型社会を作る土台になると考えています。こどもだけ、若者だけということではなく、ひいては前橋市民全体の幸福度に繋がりますし、前橋市全体の発展に繋がってくるという方向で進めているところでございます。第八次総合計画に向けて、そういった観点からも皆さんから色々のご意見をいただければと思っております。限られた時間で、毎回もっと時間が欲しいなと思う会議ですが、ぜひ今日も色々な課題に対して建設的な議論をお願いいたしまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。
阿佐美未来創造部長	ありがとうございました。 また、本日は副本部長である細谷副市長、吉川教育長にもご出席いただいておりますが、時間の都合上、ご紹介のみとさせていただきます。

続きまして、市側の出席者についてですが、自己紹介については省略させていただきますが、冒頭ごあいさつを申し上げました小川市長以下、名簿に記載のとおり計10名となっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。

資料は、次第下部に記載のとおりとなっています。

必要に応じてお手元でご確認いただきながら、ご協議をお願いいたします。

資料一覧

(1) 県都まえばし創生本部有識者会議委員名簿

(2) 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱

(3) (資料1) 第七次前橋市総合計画2025年度改訂版について

(4) (資料2) 第七次前橋市総合計画2025年度改訂版

(5) (資料3) 第七次前橋市総合計画2025年度改訂版(概要版)

(6) (資料4) 第七次前橋市総合計画第3期推進計画に係る有識者意見回答一覧

(7) (資料5) 第七次前橋市総合計画第3期推進計画に係るパブリックコメント結果

(8) (資料6) 第3期県都まえばし創生プラン(人口ビジョン改定版)

(9) (資料7) 若者に対する転出入アンケート結果について

(10) (資料8) 外国人に関する自治会アンケート結果について

(11) (資料9) 前橋市総合計画について

もし、不足のものがありましたら、挙手をいただければ、すぐにお持ちさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

なお、稲田委員、江口委員、前田委員については、欠席となっておりますので、ご了承ください。

それでは、次第の「3議事」に移ります。

ここからの進行は、設置要綱第5条第2項により、共愛学園前橋国際大学の
大森委員さんに座長をお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、冒頭に一言ごあいさつをいただき、議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

大森委員

みなさま、こんにちは。座長を務めさせていただきます大森でございます。

年度末のお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。先程、市長から説明がありましたが、皆様から沢山のご意見を反映した2025年度改訂版の最終版について報告いただき、この会議でご了承いただきたいと思います。次に3年後の第八次前橋市総合計画の改訂について考えることとなります。3年後の社会もどうなっているか分からない中で、例えば計画を5年間とした場合には8年後の前橋の未来の話を皆さんで議論していただきたいと思います。

本日の会議は、概ね1時間30分を目安に進めていこうと思いますので、みなさま進行にご協力いただければと思います。

	また、この会議は公開となっていますので、傍聴、撮影につきましては許可することといたしますので、よろしくお願いいたします。 それでは、「(資料1) 第七次前橋市総合計画 2025 年度改訂版について」進めていきます。 冒頭事務局から説明をしていただいたあと、ご意見、ご質問等いただきたいと思います。 それでは、事務局からよろしくお願いいたします。
林政策推進係長	【(資料1)「第七次前橋市総合計画 2025 年度改訂版について」に基づき説明】
山形委員	内容ではないのですが、こども若者意識調査の 10 ページのリンクを確認したので、サイトに繋がらないようですが。
猪熊政策推進係員	こども若者意識調査の公表が4月1日になりますので、現在は見られない状況です。4月1日以降にご確認いただければと思います。
大森委員	ありがとうございました。 次に石川委員さんお願いいたします。
石川委員	極めて細かい項目になりますが、企業誘致は必要だと思いますが、工場等の緑地面積を自治体の条例で下げることができる仕組みが少し前にできたと思いますが、これは国が急務としている環境配慮した施策とは矛盾していると思います。前橋市が緩和した条例を制定しているかはわかりませんが、それを前提にして企業誘致するというのは企業にとってもプラスにはならないと思います。グリーンインフラもありますが、企業誘致を市としてやるかは別として、緑地自体を増やす方向で考えていかなければならない時代だと思います。前回12月の会議から数ヶ月で急速に情勢が変わってきておりますので、今回の計画に盛り込むのは厳しいとしても第八次総合計画を作るときには常識化していることだと思いますので、緑地を市としてどうしていくのかももう少しポジティブな方向に修正して考えて行ったほうが良いかと思います。
大森委員	非常に大事な意見だと思います。 安易に緑地を減らさないということかと思いますが、前橋市は、まちづくりにグリーンを意識してきたと思いますので、この流れは維持しながら、第八次総合計画に向けても取組んでいければと思っております。
矢端委員	こども若者意識調査で「あなたは今住んでいるところが好きですか」という質問があって、好きではないところや明るい希望を持ってない理由など、もう少し詳しく質問しているということですが、「今住んでいるところが好きですか」という質問が漠然としているように感じます。アンケートには小学生、中学生、

	高校生とあって、小学生が住んでいる範囲と中学生が住んでいる範囲、高校生が活動している範囲は少し違っていて小学生だったら、私の想像ですけど、家族と学校くらいしかイメージできていないかなと思います。前橋市が好きかどうかを聞かれたら私も困る質問で、もう少し具体的に聞いたらどうかという点では、前橋市にも色々な面があり、山の方に住んでいる人、まちなかに住んでいる人、私のように農村部に住んでいる人で普段暮らしている感じはすごく違うと思うので、もう少し住んでいる地域や場所によって小学生がどう感じるのか、好きな理由を掘り下げて聞けると良いのではないかと思います。
猪熊政策推進係員	貴重なご意見ありがとうございます。 スペースの都合でこういった掲載にはなっておりますが、おっしゃるようにこども自身がどのように認識しているかもそうですし、居場所や人との関わりとか、生活・活動に対する質問も聞いておりますので、そういった点も伝えられるようにしていきたいなと思います。また、こども若者という範囲で小中高と載せていますが、実際には独身の 20 歳から 39 歳の区分を作ったり、既婚者の方に意見を聞いたり、こどもの保護者に意見を聞いたり、詳しい調査をしておりますので、それらも分析しながら考えて行きたいと思います。
小川市長	このこども若者意識調査は 4 月 1 日になりましたら公開になりますので、文量が多いのですが時間があるときに目を通していただけたらなと思っております。今、矢端委員さんからご意見いただいたように、質問の項目自体がざっくりしているものもあるのですが、ここに載っているところだけ見ても、少し自己高揚感のところが特に中学生になると低くなっていたり、自分が好きだ、というところも小学生と高校生の間の中学生がガクッと下がる傾向が調査では出ていて、原因や要因についても分析をさせていただいて、今後の若者対策に活かせていけたらなと思ってます。また詳細も見えていただいご意見もいただければと思います。
大森委員	第八次総合計画の策定に向けては相当有効なデータになってくるのではないかと思います。ただ、今のこどもたち若者がどう思っているのか、それを未来に向けてどう変えていきたいのかを考えていくことになるかなと思います。今後八次総合計画を議論するタイミングで分析を出してもらえるとありがたいです。
坂柳委員	意見の 16 番を採用していただき、67 ページの修正をしていただきありがとうございます。直接成果で「理解促進」から「参加できる機会が提供される」に変更されたことで見える化が出来たと感じています。実際に記載されているプロジェクトは今進んでいるところなので、計画をみた市民や障害者の方が取り組みについて出来ているかどうか判断しやすくなったことが良かったです。また、総合計画全体が市民の方にとって読みたいと思えるような冊子になったと思います。

大森委員	ありがとうございました。この後第八次計画の議論の入っていくことになります。第七次総合計画の改訂版に関しましては、こういう方向で進んでいくとご了承ください。 次に議事の（３）第八次前橋市総合計画の策定に向けての意見交換に入りたいと思います。少し呼び水になるようなデータや話題を提供していただきたいと思います。説明の中でこういうデータが欲しいなどあればご意見をいただければと思います。では、事務局からお願いします。
飯塚政策推進係員	【（資料７）若者に対する転出入アンケート結果について】説明
上田政策推進係員	【（資料８）外国人に関する自治会アンケート結果について】説明
猪熊政策推進係員	【（資料９）前橋市総合計画について】説明
大森委員	事務局の方から話題提供として３点ご説明いただきました。 ここからは、３年後に作る計画に向けて、かなり前広な意見を求めたいと思います。こんなことが必要じゃないか。こんな観点が必要じゃないかなど、ご自身の専門の分野での意見でも結構ですのでよろしくお願いします。
横田委員	若者に対する転出入アンケートについて、そもそもの質問で恐縮なのですが、民間に委託された調査なののでしょうか。
林政策推進係長	事務局で実施しています。
横田委員	これはオンラインアンケートですか。紙アンケートですか。
林政策推進係長	郵送で調査票を送付し、WEBで回答を受けております。
横田委員	回答期間が２週間としていることに、何か背景はありますか。
林政策推進係長	特に２週間の設定について理由はありません。あまり長くても、回答する人はするし、しない人はしないと思って回答期間を設定しました。
横田委員	前職が調査会社だったもので、気になったところを確認させていただきました。 まず、調査期間が短い印象があります。一般的なオンラインの登録会員向けのオンライン調査だったりすると２週間という調査期間もよくありますが、今

	回の場合、2週間だと真のニーズ把握につながる母数が集まらないのかなと思いました。また、若者のニーズ調査は難しく、回答するインセンティブがないと回答が増えないことが多く、回答するモチベーションづくりが重要だったりします。何をインセンティブにするかはまた別の議論ですが、回答すること自体が良いこと、自分の誇りに繋がるようになるといいと思います。 群馬県の労働政策課もほぼ同様のアンケートを実施しており、そちらのアンケート結果も私達の認識とほぼ同じになんじやないかなと思います。だからこそ次はより深いニーズの把握に進むのがよいのではないかなと思います。具体的には、今あるデータの分析で言えば年代で分けて分析する。年代に寄って分析が変わってくる。また、回答によってセグメントを切ることで、セグメントごとに深い分析を行うことができると思います。 おそらくこの調査を同様の設問で継続しても、あまり変化がなく全国的な結果とも変わりがないのかなと思いますので、次に向けた議論では、インタビュー調査など深いニーズの把握をした方がよいのではないかなと思います。
大森委員	継続的に調査しなければいけないとは思いますが、観点に子育てや教育を充ててみると、それがあったから東京に行ったとか前橋市に来たとか、大きなファクターになるかなと思います。 また、家族構成なども抽出して、もっと深く分析ができればいいと思います。
森下委員	前橋市に限ったことではないと思いますが、10年後に前橋市が発展していくためには外国人材は大事なプレイヤーの一人に必ずなつてこざるを得ないと思います。 今回資料をみていて面白いなと思ったのが、パブリックコメントで、1つ目の意見に外国人の受け入れ絶対反対というのがあります。すごく色々な考えがあり難しいところだと思うが、前橋市にはすでに外国人が1万人いて、税金や社会保険の負担者として決して小さい存在ではないと思います。外国人材を積極的に受け入れるとは言いませんが、外国人材は大事なプレイヤー、仲間であるという観点がこれからのまちづくりには必要なのではないかなと思います。
大森委員	前橋市のまちづくりをこれからどうしていくかを考えたときにしっかり議論すべきテーマですが、東毛の方の外国人の方はしっかり働いていると思いますが、前橋市の外国人は、結構な数が留学生というところもあって、彼らが定着していくという観点が必要だと思います。まちづくりを担っていく人材としてどういうふう呼び込んでいくか重要な点だと思います。
石川委員	前回の有識者会議で、他の市町村の計画はどうか、参考にするべきではと申し上げました。 資料に示されたうち、高崎は左うちわというか、市として綿密な計画を立てなくても勝手に伸びていくだろうという、ある意味楽観的なものであり、水戸と宇都宮をどちらかと言うと前橋のテンプレートにすべきと思います。

	今大学は国から十年先のグランドデザイン、ビジョンを作ってそれに即して中期計画を作れと指導されている。ここで言う3層構造は必ずやれとなっていていいます。それをやらないと何ができないかというと、実現に3年10年以上かかる大きな改革ができない、それが最初から気になっていて、3年とか5年ごとに計画を作っていると、その中できることしか出てこない危険性があります。外国人の問題や交通の問題や企業誘致の問題など、大きな計画は3年計画では絶対に実現できないので、もう少し踏み込んで、宇都宮市の50年では長すぎるような気もしますが、長期に実現すべき課題を分野別で立て、それを踏まえて中期・短期の計画に落とし込んでく手法が必要と考えます。
大森委員	予測困難な時代ですから、わからないというところもあるんですけど、教育の世界では2040年がすごいターゲットになっています。前橋にとっても30万人を初めて切る年でもあるので、そこをターゲットにしながらその時にどうなっているか、という議論はやりやすいというふうには私も思います。
清水委員	2040年問題は医療の分野としては高齢者が最多になり、これから新たな地域医療構想へ変わってきている段階です。これから介護が必要になる人たちがかなり増えていくことは決まっていますし、こどもはどんどん減っていく状況になっています。先程森下委員も仰ったとおり、外国人が担い手になるのも確実で、その受け入れをきちんと考えて行かなければならない。実施に働く人、生産年齢人口が減るので、AIのことも外せないと思っています。 また自然災害、山火事が多くなっている。これも乾燥やCO2など色々な問題もあるが、やはり防災も外せないのではないかとすごく考えています。 自然災害が非常に増えており、群馬は比較的少なく感じているが、ところどころ起きています。大きなものがあまり目立たないだけで、考えていかなければならないのではと思うので、いろいろな面で不安に感じています。 高齢者が増えてはいますが、人生100年時代。まだこれから健康寿命は少しずつ延びていく。延伸できるところにいる。働き手をどうやって生産年齢人口のプラスにするか、65歳位以上の方もうまく雇っていかなければならないのではないかと。看護師ではプラチナナースと言われているが、その人達にどう働いてもらうかということです。医療の中にどんどん働き手がいなくなるのでそういうところも考えている状況があります。 非常に多岐にわたる問題だということと、先を見れば見るほど人がいないことに困っています。若者・こどもは非常に大事、こどものことも考えてそこも伸ばしながらも、高齢者もやはり一つのターゲットにする優しいまちづくりも必要だと思っています。
大森委員	AIの話も出ましたが、2040年2050年とか、一番予測がつかないのがデジタルだと思います。この10年で何もかも変わりました。予想してとは言いませんが、その観点から山形委員さん何かありますか

山形委員	AI の観点では、昨日、一昨日くらいからチャット GPT で漫画も描けるようになり、爆発的で、去年の今頃では考えられない状況です。このまま行ったら漫画家も必要なくなるのではないかみたいな状況に変わって来ています。 我々は本質的に何が必要か？ということ、デジタルの界限にしながら考え始めています。ここ最近もう自分がデジタルから離れてきており、デジタルをやればやるほど、「食」や「手触り」に考えがいつています。人口減少対策、子育て支援、高齢者問題、それぞれとても重要だと感じながら伺っていたところです。私は完全な「よそ者」として3年間前橋に関わってきて、面白いとおもうのが僕の中の「前橋の推しビュー」があります。弁天通りを歩きながら、奥にずっと下がり気味になるアーケード街がいいよね、とか赤城山の鳥居をみて、こういう山もいいなと感じたり、「私達の心の前橋」というような、そういうビューというのを、本当は市総合計画の中に、人間としての本質というか美しさ、美の基準など、そういうところも考えていかないと、AI が発展すればするほど、そこに立ち返って見るという観点も、第八次の時には重要になってくるのではと強く感じています。
大森委員	10 年後、20 年後を考えたときデジタルを計画に位置づけるのかどうかという問題はあります。今回デジタルは下支えで、例えば今「電話を活用して」とは言わない、あまりにも当たり前のことです。それより大事なものを考えていくのかもしれない。一方でインフラの問題など、都市計画的な課題が全国でいろいろ出てきているので、その観点でこれから先の前橋はどうでしょうか。眞庭委員さんお願いします
眞庭委員	ハザードマップを作られていると思うが、今はどうしても居住優先というか、土地の利用者優先で売りたい所有者がマッチングすれば、畑であっても山林であっても売ってしまうため、規制をかけていく時代になってくるかと思います。 河川周辺の浸水被害があるところは居住から外していく、逆に外したときに資産価値が下がるかもしれないと思う方もいるので、そのフォローも必要です。 若者アンケートの中でも土地の安さより住みやすさという結果は前橋にとって良いと思います。土地の価格ではまちなかより中山間地、地価の安いところに目を向けてしまうが、それが是正されてきていると思いました。 もう一つ気をつけていただきたいのが、今お金がないから賃貸なのか、本音を言うと一戸建てがよいのか、というときです。こういった部分はうまく誘導すれば、まちなかの空き家対策にもつながるが、うまくいかないとまた中山間地の一戸建てに目がいつてしまうと思います。交通面であったり社会基盤的な整備からは逆行してしまうので、アンケート結果とすれば非常によい方向に流れているが、今後の政策どう導くかというのも重要になると思います。
大森委員	アンケート分析はもうちょっと深く考察したいと思います。利便性と安さがあるが前橋の場合、どこまで郊外でどこまで街か。いま駒形に住んでいるが、見方によってはまちなかより駒形のほうが利便性高い。交通問題や店舗の問題

橋本委員	など、もっと中心市街地の利便性をあげていかないと、郊外が安くて便利になってしまいます。やはり都市計画を考えていないといけないと思います。まちづくりについて、橋本委員さんいかがですか 横田委員からもありましたが、若者転出入アンケートは、18 歳から 39 歳が対象でした。年収をみると、200 万から 1,000 万とあって、ここから一律にアンケートをとっても、幅が広くなりすぎてしまうため、20 代、30 代など世代絞ったほうが、もうちょっとしっかりしたデータがとれるかと思った次第です。これから 2040 年に人口ビジョン 30 万人キープする、日本中がこういうビジョンだと思うが、限られた人口の取り合いになります。外国人ももちろん必要になってくるため重要なのは、前橋市をどうアピールするか、どうやって外の人に「前橋いいな」と思ってもらえるかということです。プロモーション戦略をもうちょっと検討したいと思います。今は SNS のフォロワー数などが目標だが、もうちょっと手に取れるような形を。例えば外国人向けなら英語での発信だろうし、この先の 10 年というとき、プロモーション・宣伝の仕方考えてもよいかと思っています。
大森委員	先程山形委員さんの「ビュー」の話もありましたが、そういうのも前橋のいいところが響くでしょうし、またコンテンツをどうするかという方向にも力を入れていかれると思っています。人口減少、少子化での部分は田中委員いかがですか。
田中委員	こどもを預かる、支援する分野ですから、少子化人口減も一番最初に味わう。こどもが少ない、待機児童がいたのが希望する施設に預けられるようになったのも、人口減のひとつの要因です。 最近外国のお子さんをお預かりすることも多くなり、お父さんは日本語が話せるが、お母さんは話せない、またその逆などもあります。そこで翻訳アプリを使ってある程度なんとかしています。はじめは若い保育士のほうがアプリを使いこなせるのでお願いしたりもあるが、徐々に慣れ、このように翻訳アプリを使いながら、持ち物やなど必要な事項をつたえるなどの保育が始まっているのが現状です。 前橋市が掲げるこども子育てのまちという点では、これからの若者これからお子さんを持つ世代について、これからまちの中でも中心市街地がだいぶ変わって来ます。こどもやお母さんが遊べて、一日過ごせるまちづくりも必要で、遊べるだけでなく飲食や農産物も提供できるところや、雨でも大丈夫なアーケードがあるので活用を考えていただく。若い人が、こどもができたらしこに行こう、あそこに行こう、と思えるような、「こどもと行きたいまちづくり」が必要です。 我々は移住者を連れてくると言うより、来た人をどれだけサポート出来るかということなので、サポートする立場として、出来る限り寄り添っていくことで、前橋はもっともっと良くなるのではないかと考えています。

矢端委員	眞庭委員もおっしゃっていた防災の面についてですが、私自身農業をやっています。父は70年農業をやっているが先日初めて堆肥から火が出てしまった。本当に初めてのことで、養豚業者からいただいている豚のフンにおがくずを混ぜたものを堆肥ハウスで溜めて切り返ししながら使用しているのですが、そこから煙が出てしまいました。こんなことは初めてで、炭化してしまっていて2日間水をかけて消火しようとしてもまだ煙が残っているような状態でした。山林火災もそうだけれど自然災害色々なところで起きていて、こういったこともあるんだなと思いました。 まさかここから火が出るとは思ってなくて、今までは想像もできなかった事態で、乾燥によるものだと思いますけれども、予想もできないような事態がいろいろな予防線を張っていてもそれを上回るようなことがこれからどんどん起きてしまうと思うので、なにかしらこれで完全というわけではなくて、少し余力を溜めておくとか、市の財政としてもなにかあった時にそれに充てられるようなものがあると良いと思いました。 それからもう1点ですが、今、皆さんの食の関心という「お米」への関心が強いと思います。農業者の立場から言うと、今のお米の価格が適当というのが実態で、今までが安すぎたと思っています。文化的なものもあると思うけれど、急に、お米の値上げだけなぜこんな大騒ぎになってしまうのかと思いました。だから、なにかしら私達は農業に対して関心を持ってもらうことが大切だと思います。デジタル社会になり、ITなりをうまく活用して、これからどんどん暑くなってくるけれども外で働かなければ行けない農業者、農家の負担を減らす方向へ技術が使われていくといいなと思っています。 それとともに、先程山形委員がおっしゃったように、他のものには変えられないものこそ「食」だと思います。食がこれからどんどん大切な場面担っていくと思います。今までも前橋市の予算の中では農業関連予算が削られてしまっていて、全体の割合を円グラフでみると確認できない時もあるくらい少なくなっているが、今、いろいろな面で変えていただいているということですが、まず農業に関心を持つ、前橋に関心を持ってもらうようなもの、前橋の魅力を発信していくということを考えていただけると良いと思います。 従業員に、山口県から移住してきた夫婦が居ます。住まいは高崎なのですが、一年間住んでみて前橋の田んぼで仕事をしていて、とにかく色々な山が見えてそれに囲まれている風景は他にないまちの特性だと言ってくれています。それから医療についても、充実していて、例えば高崎市に住んでいて赤ちゃんが産まれちょっと大変な病気になってしまった時には、協立病院の医療技術にとっても感謝をしていました。その彼らも他の県に移住を考えています。何故と思うんですが、やはり赤ちゃんを育てるのに手伝ってくれる人が近くに居ないのがとても大変で、仕事も周りの人にも恵まれているんだけど移住を検討しているという状況にがっかりもしているのですが、そういう人達も居て、みんな問題が違うとは思いますが、こういった会議を通じて、これからも住み続けたいといった要素を増やしていくことはとても地道な作業ですが、そういうためにこの会議があってほしいなと思います。
------	---

坂柳委員	気付いたところですが、福祉の分野というのが結構ネガティブなイメージだったりしたのですが、先ほどご説明のあった転入出アンケートで働きたい希望の1位が「医療・福祉」だったことが、ちょっと新鮮でした。前橋は福祉人材を輩出する大学とかが多いと思います。医療・福祉が充実していることや、最近外国人の方が働く分野として介護が認められるようになりましたので、これからの雇用の創出に福祉分野も意識してもらって、福祉分野で働くことが楽しく、前橋で働くことが楽しいとなっていくことが必要と感じています。先日、ちょっと事件もあったりして福祉分野の会社も色々なんですけど、これから介護のニーズも高くなっていきます。高齢者の方々の人数はピークが来ると思うんですが、障害者については、説明にもあったとおり障害児は人口減少下でも増えていることなど、障害福祉分野のニーズは減らないと思います。共生社会の推進と働く意欲と貴下の創出をリンクさせていくことが、これからの計画では大切だと思います。
大森委員	福祉、保育など非常に重要なところを支える人材育成をしている大学や専門学校とかは群馬県内に結構たくさんあるんですが、少子化の影響で2040年にはそれらが維持できているかどうかは課題となっています。そういった人材を輩出する機関自体がもう成り立たなくなるのが2040年ということですので、今あるものがあると思わないで考えていかないといけない。そういう時にもう来ているかなと思っています。 最後、市長からコメントいただきますが、そう考えた時に今まで少子化対策としてどうやったらこども産み、増やしていけるかの議論をしていたけれども、これからももちろん続けるんだけど、人口30万人をきった時に前橋のまちはどういう姿になっていて、何が無くなっていて、その中でウェルビーイングな暮らしってどうなんだろうと考え始めないといけない。ずっと少子化対策やってきたけど、もっとやらなければいけないんだけど、人口が30万人きっていく時にどのようなことが起こって、どうすればみんなが幸せに生きるためには、例えばまちの形なのか、雇用もそうだし、学校もそう、なんかもうそれらを避けて話し合うことが次の計画では必要なかなと思います。
小川市長	皆様、本当にありがとうございました。色々な分野からご意見をいただいてありがとうございます。全体のところで坂柳委員が総合計画を当事者の方や、市民の方が読みたくなるようなものになったということで、今回の改訂を評価いただきましたけど、それってやっぱりすごい大事だなと思っています。せっかく今までも総合計画ずっと作ってきているけれども、これを読んでいる市民の方はなかなかいないんじゃないかなと思います。そうじゃなくて色々な、多様な主体が暮らしている前橋市、障害のある方や高齢者も、こどもも外国人も、みんながこれを読みたいと思ってもらえることや、読んで自分の立ち位置だったりとか、前橋市全体がどこに向かっているのかっていうのが誰でもわかりやすいし、読みたくなるようなものが作れるのが、青臭いんですけども理想だなと思っています。 本日、たくさんの課題やこれから必要な要素もいただきましたけれども、そういうことについても、こうなったらいいな、はもちろんだし、みんなが住み

	やすい前橋になったらいいなとか、こういうサービスがあったらいいなとかどんどん増えていくのも大事ですが、私が市役所に居て感じるのは、行政だけがこの計画を作って実行していくのだとやはり意味がないなと思っていて、どれだけ市民の皆さんに前橋に対する帰属意識という大変かもしれませんが、自分たちがこの社会を作っている一因なんだっていうこともしっかり伝えていって感じていただいて、だからこそ、前橋のここが好きだとか、農業を残すために自分達になにができるかとか、環境も大事にしていきたいって思ってもらって、一緒に進めていくものを作り上げていくのが、次期の第八次総合計画では求められているのではないかと思います。その中には、大森委員が先程まとめてくれましたけど、これから社会がサイズダウンしていく中でもしかすると市民サービスも今までとは違って、減るものもあるかもしれない、施設も集約されていくかもしれない、ただ、それでもみんなで乗り越えていこうとか、前橋をみんなで作っていこうっていうことが大事になってくるので前向きにこれからの社会をみんなで議論できるような総合計画にしていきたいですし、そのためのプロセスも有識者の皆さんもそうですけれども市民の方々も巻き込んで、みんなで前橋のこれからを考えていけるような機会を今後3年間で作っていけたらなと思っています。 本当に本日はたくさんの視点、話題をいただきましてありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
大森委員	それでは、予定されていた議事が終了いたしましたので、座長の任を解かせていただきます。 議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。
阿佐美部長	大森委員さん、議事進行ありがとうございました。 次に、事務局から事務連絡等がありましたらお願いします。
林政策推進係長	事務局より1点、ご連絡があります。 本日の会議録につきましては、作成でき次第、委員の皆様方に送付させていただきます、内容の確認後、ホームページで公表となりますので、ご承知おき下さいますようお願いいたします。 事務局からは以上でございます。
阿佐美未来創造部長	以上をもちまして、県都まえばし創生本部有識者会議・令和6年度第3回会議を終了します。 長時間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。 【終了】